

平成27年度 事業報告書

事業の状況

本年度も公益目的支出計画を確実に達成することを最優先に、ローソン、薬局、ドトールコーヒーショップ、駐車場整理業務等の運営収入により財源を確保し、実施事業としての4つの継続事業である医学に関する研究の奨励事業、患者支援事業、学生に対する福利厚生事業及び患者等のための食堂事業の実施に努めた。

ローソンにおいては順調に売り上げが伸びており、薬局においては金額が特に高い薬の処方が増え増収となった。また、駐車場整理業務においては平成27年12月1日に駐車場利用料金が改定され、外来患者について一定の時間無料としていたところが有料になったことで増収となった。

主な事業別の収益は、昨年度に比べ売店約21.4%増収（昨年度はローソンとしての営業期間が10ヶ月）、薬局約23.3%増収、駐車場整理業務約16.3%増収、外商約17.3%減収、食堂約3.4%減収、ドトールコーヒーショップ約10.2%減収となり、収益合計では昨年度に比べ約17.2%、約1億8,376万円増の約12億5,088万円となった。費用は、昨年度のローソン営業に伴う約580万円の初期経費、役員報酬等人件費が減ったものの、ローソン、薬局の売上増に伴う仕入費が増えたこと、ローソンへのチャージ料支払等経費が増えたことで、費用合計では昨年度に比べ約14.4%、約1億5,796万円増の約12億5,660万円となり、最終的な当期経常増減額は約572万円の費用超過となった。

平成27年度の主な事業内容は、次のとおりである。

1. 医学に関する研究の奨励及び助成事業	11,170,000円
医学研究科臨床中央研究室への研究助成	
医学研究科附属動物実験施設への研究助成	
附属病院の診療技術向上に対する助成	
附属病院検査部に対する研究助成	

弘前大学保健管理センターの成人病の研究に対する助成

医学研究科各講座学術集会の主催に対する助成

附属病院の管理運営に対する助成

附属病院看護部に対する研究助成

学生用図書購入に対する助成

2. 患者支援事業 1,072,141 円

附属病院内に観葉植物を配置

院内コンサート等の実施に対する協賛

附属病院で行われる七夕納涼祭実施に対する援助他

3. 学生に対する福利厚生事業 766,010 円

弘前大学総合文化祭に対する助成

弘前大学のねふた出陣に対する助成

医学部学生の教育研究に対する助成

4. 患者等のための食堂事業

食堂では、幅広いお客様に安全・安心な材料を調達し徹底した衛生管理を行い、食事を提供した。また、引き続き月替わりメニューや特別メニューに工夫を凝らし提供した。さらに、医局等には、弁当以外のメニューの配達やお昼以外の配達にできるだけ対応しサービス向上に努めた。なお、従来から行っている学生に対する値引き提供について周知徹底を図るため、チラシの掲示や学生ガイダンス時の資料に加え配布した。

5. 病院内及び周辺における患者等に対する小売・サービス業

イ) ローソンでは、ローソンの規約や指導に基づいた仕入を行いチャンスロスを最小限に抑えること、当店独自の商品を販売すること、商品の陳列方法を工夫することに努めたことで増収となった。また、意見箱を設置し、お客様の意見に速やかに対応し、利用者へのサービス向上に努めた。

ロ) 薬局では、金額が特に高い薬の処方が増えたことで増収となった。スタッフは、

医療安全セミナーや緩和ケアセミナー等に積極的に参加し、モチベーションを高め、さらに、患者との信頼関係を築くよう丁寧な投薬指導に心がけ、迅速な調剤業務に努めた。

- ハ) ドトールコーヒーショップでは、電子マネー対応により、会計処理の迅速化、ポイント利用等お客様の利便性が良くなった。病院内の寛ぎの場として休診日等BGMを流し、厳選された商品とスタッフのおもてなしの心でお客様に対応し、サービス向上に努めた。しかし、ローソンのマチカフェの影響で減収となった。
- ニ) 駐車場整理業務では、駐車場利用料金が改定され外来患者について一定の時間無料としていたところが有料になったことで増収となった。これまで以上に迅速丁寧な対応に努め、利用者の安全かつスムーズな入退車の誘導を行った。
- ホ) 外商では、コピー・FAX サービス、クリーニング・電報・宅配便・付添寝具・コインランドリー等の取次ぎ業務等の他、お客様の要望に応じてローソンでは扱わない商品を取り寄せ販売し便宜を図った。また、弘前大学等への切手類売掛販売等を引き続き行った。さらに、医療安全の一環として病院からの要望に応じて外来棟にマスクの自動販売機を増設した。